



## 有限会社 今市製作所

企画力 短納期 小ロットOK 量産OK 試作OK 連携力

代表取締役  
ひのうえ けんじ  
樋上 憲次さん



名前はイマイチ、仕事はピカイチ！  
シートメタルのコンビニ

大きいことは言いません。小さいことしかできません。厚いものはできません。数量の多いものはできません。大きな品物はできません。一度お付き合いすれば長続きします。嘘は言いません。誠実に対応します。大きな会社はお付き合いしません。小さな会社が大好きです。夢のある会社が好きです。ビジネスネットワークよりヒューマンネットワークを大切にします。だから当社は一個一個お客様の欲しい物をお客様の身になって愛情を込めて作りあげます。

■主な事業内容  
ステンレス鋼板などのレーザー加工、精密板金加工の試作部品受注

■主な取引先(納入先)  
FA機器メーカー、機械部品メーカーなど

住 所 / 〒570-0011  
大阪府守口市金田町1-57-16  
TEL / 06-6901-7220  
FAX / 06-6901-1872  
創 業 / 昭和45年4月  
設 立 / 平成元年4月  
資本金 / 300万円  
従業員 / 3名

<http://www.imaichi-inc.com/>

# レーザー加工、精密板金による 試作部品の受注業務展開

## 事業内容と沿革

### 信用力を培い、顧客企業は全国に100社

「今市製作所」はステンレスや鉄、アルミニウムなどの金属薄板のレーザー加工、精密板金加工を得意とし、これらの加工による試作部品の受注業務を展開している。昭和45年に樋上憲次社長の父で先代社長である樋上久吉氏により金属プレス加工業として創業。大手家電メーカーの二次、三次下請けとしてプレスのほか、精密板金の技術を磨いてきた。平成24年からは商社的手法を導入。業務を試作の受注取り次ぎに絞り、加工は外部委託する形をとっている。

創業以来培った信用力で現在、顧客企業は全国に約100社を数える。加工委託先の協力企業は5社ほどあり、これらの技術力は確かだ。レーザー加工機で厚さ0.1mmから12.0mmまでの板材を思いのままに切断できる。ブレーキプレスで長さ2mまでの板を金型で自在に曲げ、プレスでのダボ成形、絞りバーリング、複雑形状も加工できる。アルゴン溶接や半自動溶接、スポット溶接なども使い分け、ニーズに対応する。樋上社長は「何でもご相談ください」と力を込める。



- ① ステンレス製の板金加工部品
- ② バフ研磨で鏡面に磨く部品もある
- ③ ステンレス製の板金加工部品
- ④ プレスブレーキを操作する樋上社長
- ⑤ プレスブレーキでの板加工
- ⑥ 板金加工で作した看板

## 強み

### 短納期・小ロット対応が得意技

「人ができることは何でもできる。何でもチャレンジする」ことがモットー。短納期・小ロットへの対応力が強みで、見積もり依頼への回答は通常1時間で行い、受注から納品までは平均1週間です。特に1個から10個までの量の受注を得意としている。

さらには、顧客の要望に応じて設計や塗装、めっき、バフ研磨などの処理も行う。これらの大部分は協力企業で行うものの、検査やねじ穴のタップ加工、最終の調整や手直しは自社で行うこともある。樋上社長は「ありとあらゆる部品にきめ細やかに対応している」と話す。

試作部品づくりにおいて特に気を使っているのは、その美観だ。これは顧客からの評価も高い。精密板金の場合は、図面の最終形状から、キズが付きにくく、溶接部分が少なくなるように作業順序などを協力企業に指示する。樋上社長は「見た目もきれいにすると、納品後の後工程が楽になる」と説明する。価格だけではなく部分にこだわることで、リピート注文を増やしている。

## 取り組み

### 地方の中小製造業、ベンチャー企業を応援

樋上社長は「大都市圏と違って、企業集積が少ない地方では、中小製造業やベンチャー企業が板金加工で試作品を作ろうとしても困難な場合が多い」と指摘する。というのも、地方では板金加工業が少ない上、あったとしても大企業とのつながりが深く、短納期・小ロット対応が要るベンチャー企業などとの新規取引には消極的となるのが実情だからだ。

試作品づくりに関する中小、ベンチャー企業のニーズに応えるため、「今市製作所」は平成20年に経営革新支援法の認定を受け「地方の製造業をターゲットにした板金加工のコンビニ」事業を展開。ものづくり支援で足跡を残してきた。

地方の中小製造業向けに、数個単位の小ロットから板金加工を受注する事業で、同社でできない仕事は、金属加工業者が集積する大阪の地の利やネットワークを生かして解決する。同社の現在の業態と重なる部分も多く、事業計画期間を終えた今でも受注は続いている。樋上社長は「中小製造業の困りごとに対応する扉は常に開けている」と笑顔で語る。

## 今後の展開

### 社会に貢献する製品づくりへの参画を目指す

現在展開している試作部品の加工受注にとどまらず、大学や公設試験研究機関、民間企業などと新たに連携することを目指している。こうした活動によって、樋上社長は「新製品や新技術の開発などに積極的にかかわっていきたい」と意気込みを語る。

追求するのは社会に貢献する製品づくりだ。人の役に立つもの、病気の人の助けになるような製品の開発に、これまで培った技術や人的ネットワークを生かしたいと考えている。樋上社長は「儲かるからするのではなく、夢のあるものにたずさわりたい」と心境を明かす。

短納期加工、小ロット対応を数多くこなすことで収益を確保してきた試作部品の受注業務は今後、顧客要望への対応をさらに強化し、納期などの一段のスピードアップを図る方針。大阪府守口市は大手家電メーカーの協力企業がひしめく企業城下町。この地で鍛え上げられた対応力を存分に発揮していく考えだ。